

## 様式 C-19

### 科学研究費補助金研究成果報告書

平成 22 年 4 月 1 日現在

研究種目：基盤研究（C）  
 研究期間：2007～2009  
 課題番号：19520451  
 研究課題名（和文）  
 中国語話者のための日本語教育文法の開発と学習者中間言語コーパスの構築  
 研究課題名（英文）  
 Explicit instruction of Japanese grammar for L2 development by Chinese learners and the construction of an L2 corpus of Chinese learners' Japanese  
 研究代表者  
 杉村 泰 (SUGIMURA YASUSHI)  
 名古屋大学・国際言語文化研究科・准教授  
 研究者番号：60324373

#### 研究成果の概要（和文）：

本研究プロジェクトでは次の二つの研究成果を得た。第一に、中国人日本語学習者の会話および作文を収集し、コーパス（言語研究に使用するための特定の言語のテキスト集）として一般公開を行った。第二に、中国人日本語学習者の動詞、複合動詞、格助詞などの御用を分析し、その結果、中国人日本語学習者は動詞の形態的な自他よりも格助詞の選別を間違える誤用が多いこと、漢語動詞の使用に母語である中国語の動詞の性質による影響が現れることなどを明らかにした。

#### 研究成果の概要（英文）：

This project successfully met two research objectives. First, a corpus of conversational and compositional discourse targeting specific linguistic criteria for use in an analysis of L2 Japanese production by L1 Chinese speakers was collected and publicly released. Next, the corpus was analyzed for grammar use, in particular focusing on case particles and verbs (transitive, intransitive, and compound) occurring in the corpora. Results of the study a) showed that misuse of Japanese particles was more frequent than verb-based morphological errors made by the learners and b) indicated that use of Chinese-derived Japanese verbs (*kango*) by the learners was influenced by characteristics of those in the Chinese language.

#### 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2008 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2009 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

#### 研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・日本語教育

キーワード：日本語学、中間言語、日本語教育、中国語話者、対照研究、コーパス、誤用分析、会話データ

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究は中国語母語話者が日本語を習得する際に産出する中間言語を分析することにより、誤用の原因や誤用の生じる規則を明らかにし、日本語教育へ応用することを目的とするものである。

日本語の文法習得研究は従来盛んに行われているが、誤用の頻度を数字で示したに過ぎないものも多く、文法的に誤用の原因を追究した研究はまだ発展途上の段階にある。このような中で、野田・迫田・渋谷・小林 (2001) 『日本語学習者の文法習得』や張麟声 (2001) 『日本語教育のための誤用分析—中国語話者の母語干渉 20 例』のように単なる誤用の頻度の比較ではなく、言語の文法的・意味的性質にまで踏み込んで研究もある。しかし、これらの研究は誤用のデータが少ない中で、表面的な二言語の違いを比較する段階であった。そのため、①大規模な学習者中間言語コーパスを作成し、データに基づいた分析を行うこと、②学習者の母語と目標言語 (=日本語) との文法的・意味的性質の違いを踏まえた対照研究や誤用分析に根ざした習得研究を行う必要があった。

(2) 日本語教育においては、留学生総数の7割以上を占める中国語母語話者に対する教授法の改善が急務とされる。そこで2005年に「中国語話者のための日本語教育研究会」が発足し、日中対照研究と誤用分析による成果に基づいた中国語母語話者のための日本語教育研究が組織的に実施されるようになった。本プロジェクトではこの研究会の活動に基盤をおき、中国語母語話者に見られる「外国人訛りの日本語」をコーパスとしてデータベース化し、学習者の習得過程に見られる中間言語の実態を明らかにする必要があった。

## 2. 研究の目的

(1) 従来、日本語学習者の中間言語データは、KYコーパスや国立国語研究所の「日本語話し言葉コーパス」、名古屋大学の大会科研究で作成した「話し言葉および作文コーパス」などを除き、各研究者が個人で収集して個人で利用することが多かった。しかし、こうしたデータを研究者間で共有すれば、個人でデータを収集する労力も少なく済み、同じデータを使った追跡調査も可能となる。そのため、本プロジェクトでは中国の魯東大学および華東政法大学の協力を得て、会

話および作文コーパスを作成し、そのデータを一般公開することを目的とする。

(2) 従来の日本語習得研究では、学習者の母語と日本語の文法的・意味的性質の違いを踏まえずに、単に誤用の出現比率を問題にして議論されることが多かった。これに対し、本研究では日本語と中国語の文法的・意味的性質の違いに着目し、対照研究と誤用分析に根ざした習得研究を行うことを目的とする。

## 3. 研究の方法

(1) 本プロジェクトでは習得研究を行う前提として、中国国内で日本語を専門に勉強する学生を対象に、会話と作文のデータを収集してコーパス化を行った。会話コーパスは魯東大学外国語学院日本語学科の協力を得て、日本人教師1人と中国人学生の会話を収集した。作文コーパスは華東政法大学外国語学院日語専攻の協力を得て、2年生の日本語作文の授業での作文を収集した。いずれもワープロで電子データ化し、コーパスとして構築した。

(2) 上で収集したデータをもとに学習者の会話や作文の中から「複合動詞」、「動詞の自他」、「漢字語」、「助詞」を抽出し、誤用の傾向や原因を分析した。その際、必要に応じて中国人日本語学習者や日本語母語話者に文法性判断テストを行い、それとの比較も行った。

## 4. 研究成果

### (1) 学習者中間言語コーパスの作成

本プロジェクトでは中国国内の大学で日本語を専門として学ぶ学生を対象にして、会話および作文データを収集し、学術研究に資するコーパスを作成した。

#### ① 魯東大学会話コーパス

魯東大学外国語学院日本語学科の日本人教師1人と中国人学生延べ405人の日本語による会話コーパスを作成した。

(収集データ)

- ・2006年6-7月 (1年生59人、2年生28人、3年生20人、4年生27人)
- ・2007年6-7月 (1年生30人、2年生55人、3年生26人)
- ・2007年12月 (2年生56人、3年生50人、4年生54人)

## ② 華東政法大学作文コーパス

華東政法大学外語学院日語専業の2年生の日本語による作文コーパスを作成した。

(収集データ)

- ・「夏休みの思い出」「クラスメート」、「アルバイトについて」「英語を大学の必修科目にすべきか」「私の好きなもの」「インターネットと私の生活」「〇〇への手紙」「心を打たれたこと」「寓話:親子とろば」、「現代若者のファッション」「子供の時の夢」「私の育った町」「私の友人」「学習到達度調査」「読書の方法」

## (2) 学習者中間言語データの分析

まず、(1)により収集したデータおよびアンケート調査により得たデータをもとに中国語を母語とする日本語学習者の誤用例を抽出した。次に、「複合動詞」、「動詞の自他」、「漢字語」、「助詞」について、日本語母語話者の使う日本語との違いを比較し、誤用や転移の特徴を分析した。その結果、学習者は動詞の形態的な自他よりも格助詞の選択を間違える誤用が多いこと、漢語動詞の使用に母語である中国語の影響が現れることなどを明らかにし、日本語の文法教育に示唆する新しい提言を行った。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 14 件)

- ① 杉村 泰、「コーパスを利用した複合動詞「-尽きる」の意味分析」『名古屋大学言語文化論集』31-2、49-60、2010、査読無
- ② 杉村 泰、「コーパスから見た中国人日本語学習者の格助詞に関する問題点について」『言語文化研究叢書』9、137-152、2010、査読無
- ③ 杉村 泰、「複合動詞の V1+V2 結合と自他動詞に関する一考察」『中国語話者のための日本語教育文法の開発と学習者中間言語コーパスの構築』平成 19 年度～21 年度科学研究費補助金(基礎研究(C))研究成果報告書(課題番号 19520451) 研究代表者 杉村泰、41-56、2010、査読無
- ④ 張 麟声、「言語教育のための対照研究の方法論について」『言語文化研究(言語情報編)』5、1-19、2010、査読有
- ⑤ 杉村 泰、「コーパスを利用した複合動詞「-残る」の意味分析」『名古屋大学言語文化論集』30-2、171-180、2009、査読無
- ⑥ 杉村 泰、「コーパスを利用した複合動詞「-尽くす」の意味分析」『名古屋大学言語文化論集』31-1、83-95、2009、査読無

- ⑦ 杉村 泰、「コーパスを利用した複合動詞「-惜しむ」の意味分析」『ことばの科学』22、151-159、2009、査読無
- ⑧ 張 麟声、「作文語彙に見られる母語の転移 —中国語話者による漢語語彙の転移を中心に—」『日本語教育』109、59-69、2009、査読有
- ⑨ 張 麟声、「名詞にかかる連語的修飾構造の日中対照研究 —「の」と“的”の使用の有無を中心に—」『言語文化研究(言語情報編)』4、23-36、2009、査読有
- ⑩ 杉村 泰、「コーパスを利用した複合動詞「-戻る」の意味分析」、『言語文化論集』29-1、405-419、2008、査読無
- ⑪ 杉村 泰、「コーパスを利用した複合動詞「-残す」の意味分析」『名古屋大学言語文化論集』30-1、47-60、2008、査読無
- ⑫ 杉村 泰、「コーパスを利用した複合動詞「-渋る」の意味分析」『ことばの科学』21、45-59、2008、査読無
- ⑬ 張 麟声、「日本語と中国語の存在表現について」、『日中言語対照研究論集』10、17-30、2008、査読有
- ⑭ 杉村 泰、「複合動詞「-疲れる」の前項動詞の特徴について」、『ことばの科学』20、101-115、2007、査読無

[学会発表] (計 14 件)

- ① 杉村 泰「複合動詞の自他に見る対称性の破れと回復」、二〇〇九年大葉大学応用日語学系国際学術研討会 一日語研究的新視野一、2009年3月28日、台湾・大葉大学
- ② 杉村 泰「複合動詞「-尽くす」の意味について」、2009年上海外国語大学日本語研究国際フォーラム、2009年6月13日、中国・上海外国語大学
- ③ 杉村 泰「中国語を母語とする日本語学習者の話し言葉コーパスの構築と応用」(公開座談会「対照研究・誤用分析・習得研究三位一体の研究モデルとその推進の第一歩」)、第一屆漢日対比語言学研討会、2009年8月29日、中国・北京大学
- ④ 杉村 泰「複合動詞「-慣れる」と「-飽きる」について —アンケート調査とコーパス調査—」、第一屆漢日対比語言学研討会、2009年8月30日、中国・北京大学
- ⑤ 杉村 泰「コーパスから見た中国語学習者の自他に関する運用上の問題点」(パネルセッション「中国語母語話者による日本語動詞の自他の習得」)、2009年度日本語教育学会秋季大会、2009年10月11日、九州大学
- ⑥ 杉村 泰「複合動詞「-切る」と「-尽くす」

す」の V1+V2 結合について」、2009 年日語教学国際会議、2009 年 11 月 28 日、台湾・東呉大学

- ⑦ 張 麟声「対照研究・誤用分析・習得研究三位一体の研究モデルについて」(公開座談会「対照研究・誤用分析・習得研究三位一体の研究モデルとその推進の第一歩」)、第一屆漢日対比語言学研討会、2009 年 8 月 30 日、中国・北京大学
- ⑧ 杉村 泰「中国語母語話者における複合動詞「-戻す」の結合意識分析」、2008 年上海日本学研究国際フォーラム、2008 年 6 月 7 日、中国・上海外国語大学
- ⑨ 杉村 泰「複合動詞「-疲れる」の V1+V2 結合について」、ヨーロッパ日本語教師会第 13 回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム、2008 年 8 月 28 日、トルコ・チャナツカレ大学
- ⑩ 杉村 泰「中国語母語話者における複合動詞「-戻す」と「-戻る」の結合意識分析」、2008「動詞とその周辺」日本語学国際シンポジウム、2008 年 10 月 12 日、中国・清華大学
- ⑪ 杉村 泰「Web 検索を利用した日本語文法研究」、二〇〇八年大葉大学応用日語学系学術研討会、2008 年 11 月 8 日、台湾・大葉大学
- ⑫ 杉村 泰「学習者話し言葉コーパスから見た中国語話者の自他動詞の誤用」、中国語話者のための日本語教育研究会 第 11 回研究会、2008 年 12 月 20 日、さかい新事業創造センター
- ⑬ 張 麟声「中国語話者における日本語漢語彙の習得について 一品詞性のずれに起因する習得の問題を中心に」、Linguistics of kango (Japanese words of Chinese origin)、2008 年 3 月 14 日、フランス・パリ第 7 大学
- ⑭ 張 麟声、奥野由紀子、金玄珠、「名詞にかかる修飾構造の日中韓対照研究—〈の〉〈的〉〈의〉の使用の有無を中心に—」、日本語教育学世界大会 2008、2008 年 7 月 11~13 日、韓国・釜山外国語大学

[その他]

ホームページ等

本プロジェクトで作成したコーパスの公開  
<http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/~sugimura/class/class.htm>

魯東大学会話コーパス

魯東大学外国語学院日本語学科の日本人教師 1 人と中国人学生延べ 405 人の日本語による会話データ

華東政法大学作文コーパス

華東政法大学外語学院日語専業の 2 年生の

日本語の作文データ

6. 研究組織

(1) 研究代表者

杉村 泰 (SUGIMURA YASUSHI)

名古屋大学・大学院国際言語文化研究科・准教授

研究者番号：60324373

(2) 研究分担者

張 麟声 (Zhang LinSheng)

大阪府立大学・人間社会学部・教授

研究者番号：80331122